

平成31年3月に行われた地域のある団体の集まりに参加した職員と、市長が話をした内容です。

=====

余白こそが大事



その日の集まりでは、毎年行うイベントについての話し合いがされていたそうで、参加した職員が感じたことを、次のように話してくれました。

話し合いは順調に進み、今年も同じような内容でやろうと決まりかけたそのとき、参加者のお一人が、

「本当にその内容で地域のためになるでしょうか。地域の中で、『少し内容を変えたほうがいいのでは』という声も耳にしました。もっといろいろな人に話を聞いたり、話し合ったりしてみませんか。」

と提案されました。

すると、他の参加者から、

「一人ひとりの話を聞いていたら、きりがいいよ。」「時間もないし、もう決めないよ」などといった声が次々とあがりました。

このままこの発言は流され、話し合いが進んでいくのかと思いきや、その方が言われました。

『いろいろな人のいろいろな意見を聞き、考えて、行動することがまちづくりなのではないでしょうか。それができないのであれば、私は、ここにいる必要がありません。』

団体のみなさんにとっては、耳が痛くなりそうな意見にも、きちんと耳を傾けたいという誠実さが、私の胸に響きました。

職場で物事を決めるときには、結論を出すために必要なことだけ話し合われることが多いのではないのでしょうか。早く決めないと、仕事に支障が出て、ときに大きな損害を生むこともあるので、仕方がありません。

しかし、同じやり方を地域に持ち込むと、どこかにひずみが出てきてしまうような気がします。早く決めて、どんどん前に物事を進めていくことが目的になってしまったり、地域に取り残されたと感じてしまう人が出てきたり、対立が起こったりする場合もあると思います。出したい結論のために、話し合う必要がないと感じる「余白」の部分こそ、時間をかけて話し合うべき大事な部分かもしれません。

～市長の話を聞いて～

思えば、会議では、何かを決めなくてはいけないと先を急いでしまうことがよくあります。参加者から「そもそも、これって・・・」と、これまでの話を巻き戻すような発言をされると、「もう済んだ話だから」と言いたくなってしまいます。

でも、もしかすると、この「そもそも」が、結論を出すための大事なのかもしれません。市長の言う、「遠回りがいい」ということが、少しわかった気がしました。